

令和3年度

学校評価結果報告書
(年度末評価)

広島県立加計高等学校

目 次

- 1 令和3年度自己評価シート(年度末評価) (様式3) ……1
- 2 令和3年度学校関係者評価シート(年度末評価) (様式5) ……4

令和3年度自己評価シート(年度末評価)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	工藤 宏一	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

1 中期(3年間)経営目標及び短期(本年度)経営目標

【中期(3年間)経営目標】 (1)基礎・基本を定着させ、進路目標を実現する。	評価			総合評価
	1年目	2年目	3年目	
	A			
【短期(本年度)経営目標】 ①生徒個々の資質・能力に応じた進路目標を早期に明確にさせる。進路				
【評価指標】 1年次終了時の志望種別(大学・専門学校・就職など)決定者の割合	前年度 現状値	本年度		評価
	-	目標値	実績値	
		100%	100%	
【短期(本年度)経営目標】 ②家庭学習時間調査結果に基づき個別指導を行う。進路				
【評価指標】 授業以外の1週間の学習時間	前年度 現状値	本年度		評価
	-	目標値	実績値	
		10時間	15.6時間	
【短期(本年度)経営目標】 ③生徒会執行部を中心とした自治活動を推進する。生徒育成				
【評価指標】 「ルールを守って生活できた」と答えた生徒の割合	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
		65%	65%	
【短期(本年度)経営目標】 ④国際交流に関わる活動を推進する。国際交流				
【評価指標】 生徒が企画・運営した行事数	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
		10	14	

【中期(3年間)経営目標】 (2)教職員の指導力の向上を図る。	評価			総合評価
	1年目	2年目	3年目	
	B			
【短期(本年度)経営目標】 ⑤「授業づくり」等を進め、指導力の向上を図る。教務				
【評価指標】 授業参観の実施回数	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
		各学期1回	2回/3学期	
【短期(本年度)経営目標】 ⑥業務分担の偏りを改善し、職員の時間外勤務を減少させる。管理職				
【評価指標】 超過勤務時間45時間/月以下の職員の割合	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
		70%	73%	

【中期(3年間)経営目標】 (3)地域に貢献できる人材を育成する。	評価			総合評価
	1年目	2年目	3年目	
	A			
【短期(本年度)経営目標】 ⑦探究活動の時間を活用し、地域との連携を深める。探究				
【評価指標】 町への提案件数	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
		5件	5件	
【短期(本年度)経営目標】 ⑧地域行事への参加等ボランティア活動を推進する。生徒育成				
【評価指標】 ボランティアに参加している生徒の割合	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
		70%	55%	
【短期(本年度)経営目標】 ⑨学校の魅力を発信し、生徒募集につなげる。管理職・生徒募集				
【評価指標】 入学定員充足率	前年度 現状値	本年度		評価
		目標値	実績値	
		100%	100%	

2 年度末評価のまとめ

評価結果の分析	中期(3年間)評価課題	成果	<p>(1) 1年生から、総合的探究の時間を中核として学年を超えた活動や地域等との交流により主体的に楽しく活動する雰囲気づくりはできている。また、地元以外からの入学生が順調に増加しており、お互いの生徒にとっていい刺激をもらいながら、教育活動ができています。</p> <p>(2) オンライン授業や遠隔教育システムの活用について、コロナ過等での必要性があり実施することができた。さらに、「協調学習」の公開研究授業では、安芸太田町と連携している高大連携プロジェクトとの成果物を活用し、小中高で実施できた。</p> <p>(3) 生徒を主体とした広報活動や新寮の建設など地域の協力により、県外からの希望者も順調に増加しており、学校全体が活性化している。また、コロナ過の中でも精力的な活動を実施できており、地域との交流や小中との連携も進んでいる。 進学した生徒の中には、大学で専門を学び将来安芸太田町に戻って地域に貢献できる仕事をやりたいという生徒も複数いる。</p>
	課題	<p>(1) 生徒一人一人が多様な進路を目指しており、クラスの中でお互いのことを思いやり、その進路を認めていく指導が必要である。さらに、オーダーメイドの進路指導により、難関国私立大学にも進学できることを生徒にも理解させ、安易な道に流れるのではなく、志を高く持ちチャレンジしていく生徒の育成を図る。</p> <p>(2) 教員の指導力向上のために、今後ICTの活用や小中で行われている「協調学習」についての授業見学や公開授業研究を継続的に行う必要がある。 ICTの活用については、教員によって活用の個人差が大きく、今後も校内研修等が必要である。</p> <p>(3) 現在精力的に活動できているが、それぞれの分掌の中でなんとか実施している状況もあり、業務改善の視点からも発展的な行事の見直しを行い、生徒の発表の場として、地元、県内、県外での活動を早期に立案・計画して、生徒や教職員が計画的に実施して行くことが必要である。</p>	
	短期(本年度)評価課題	成果	<p>① 全学年個別面談を計画どおり行った。特に3年生の面談においては、これまで以上に志望校の絞り込みや一般選抜への見直しなど個々の状況に食い込んだきめ細かな指導(オーダーメイドの進路指導)を実施できた。</p> <p>② 3年生は6月から、1・2年生は9月から調査を開始した。1年生は週当たり平均9.3時間、2年生は19.4時間、3年生は17.9時間、全体の平均は15.6時間となり目標値を上回った。1か月単位で学習時間の長い生徒を表彰することでモチベーションの喚起を図った。Google フォームを活用して毎朝、前日の学習時間を各自で入力させる形式をとり集計の効率化も図ることができた。</p> <p>③ コロナ禍で行事等の活動に多くの制約がある中で、生徒会執行部を中心とした柔軟な発想を元に、新しい形での活動を仲間と協力して作り上げる中で、生徒自ら主体的に行動をコントロールすることができた。</p> <p>④ 国際交流に関しては、昨年度に続き、本年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、様々な場面で活動が制限されることとなった。しかし、「おもてなし隊」の生徒の活躍により、国内の人材を活用し、バンングラデシュ、カンボジア、ラオス、モーリシャス、南スーダン、スリランカなど24か国から50人を超える海外の方々を招き、またはオンラインでつなぎ「加計高校に、居ながらに国際交流」及び「多様性」を体感し、「おもてなし」の実践を図ることができた。活動内容については、県の内外を問わず類を見ないものと自負している。</p> <p>⑤ 2学期については、授業観察週間を設定し、一人の教員が授業を「する側」と「参観する側」になる機会を設定し、複数の教員で授業を参観した。また、2学期からは、遠隔教育システムを使用した授業も行っている。今年度は試行期間であり、広島国泰寺高校との「生物基礎」や、「協調学習」をテーマにした数学の授業等で使用した。このシステムは今後も活用していく。</p> <p>⑥ 超過勤務45時間/月以下の職員の割合は2月時点で73%である。長期休業中については、計画的な休暇の取得はできている。今年度新たに教職員必携を作成して教職員に配付し、情報共有による組織的な指導を推進した。</p> <p>⑦ 今年度12月には、加計高生が企画して制作した「菊芋サブレー」、「キクイモパウダー」、「皮革製品」を商品化し、Campsひろしまにおいてマルシェ活動を行った。生徒が実際に接客・販売し、その後の振り返りでは、実際の起業家の方々と交流し、今後の進め方等のヒントをいただいた。商品開発や安芸太田町の「プロモーションムービー」の制作、1学年探究では、「町への滞在プログラム」など、幅広く提案することができた。</p> <p>⑧ 生徒自ら企画したボランティア活動を積極的に推進することができた。</p> <p>⑨ 生徒を主体とした広報活動や地域の協力等により、県外からの学校見学や希望者も順調に増加しており、定員は充足する見通しである。</p>

	課題	<p>① 国公立大学や難関私立大学への進学を希望する生徒に対して、3年間を見通した指導を推進していく必要がある。</p> <p>② 毎日の入力ができない生徒や学習時間がほとんど増えない生徒が一定程度いることから、学習へのモチベーションが低い生徒への個別対応の充実が必要と考える。また、量的には向上が見られた生徒は多数に上ったが、質的な充実を図ることが必要である。学習方法の実態把握と個々に必要な学習課題を克服させるような個別最適な指導が必要である。</p> <p>③ コロナの影響で活動の制限が多く、生徒の自発的なアイデアを実現させていくことが難しい。</p> <p>④ 来年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、活動が制限されると考えられる。その条件のもとでも「国際交流」が加計高校の魅力の大きな柱であるために、学校経営計画の目標達成に全教職員が参画することが必須であり、併せてその魅力を多方面に、確実に発信していく必要があると考えられる。</p> <p>⑤ 1学期に授業参観を行う機会が設定できなかった。「授業観察週間」を設定しなくても、教員自身が積極的にお互いの授業を参観しあうような体制を考える必要がある。また、遠隔教育システムについては、どの教員でも扱えるようになり、活用方法などをお互いで共有していく必要性を感じる。</p> <p>⑥ 今後、教職員必携を活用して、お互いが協力して業務改善に繋げて時間外勤務の縮減を進めていく。さらに次年度に向けて、各分掌の行事の精選、融合などに取り組む必要がある。</p> <p>⑦ 起業家精神の育成を柱とし、「探究の時間」の内容を4年前に一新した。特に今年度は、町と協力し、実際に商品開発等行えた。今後も同様な取組が継続できるよう、行った内容の精査等を行い、長期に渡って実施可能な内容としていかなければならない。</p> <p>⑧ 地域へ出向いていくことが難しく、地域の方とのコミュニケーションや評価をいただく場面が少ないため、生徒のモチベーションを維持する事が難しい現状がある。</p> <p>⑨ 安芸太田町としては、人口減は継続していることから、長期的な視野で課題意識を持って対応していく必要がある。特に幼・小・中・高の学校間連携を推進していくことが課題である。</p>
今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・地元の加計高校でもオーダーメイドの進路指導を組織的に行うことにより難関国私立大学にも進学できることを生徒にも理解させ、安易な道に流れるのではなく、志を高く持ちチャレンジしていく生徒の育成を図る。 ・学校の存続や地域の活性化のため、生徒の声を大切にして、日常的に生徒の積極的なアイデアを吸い上げて、それを実現していく過程を学校全体の取組としていく。 ・町役場、地域商社、JICA 及び JOCA など、関係諸機関との連携を更に密に行っていく。 ・ICTの活用や小中で行われている協調学習についての授業見学や公開授業研究を行う。 ・教職員必携を活用して情報共有による組織的な指導を推進する。さらに、行事の見直し、精選、融合など業務改善に繋げて時間外勤務の縮減を進めていく。 ・生徒の発表の場として、地元、県内、県外での活動を早期に立案・計画して、生徒や教職員が計画的に実施する。
学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策		<p>志を高く持ちチャレンジする生徒を育成するオーダーメイドの進路指導を推進する。具体的な方策としては、まずは、本校の生徒が地元の小・中に行き、模擬授業や進路LHR等で講師として授業を行う等の児童・生徒同士の積極的な連携を行う。このことにより、高校だけの取組として完結するのではなく、地元の小学生・中学生との交流をする中で、お互いのモチベーションを高めるとともに、さらなる学校の活性化や地元中学生の入学率向上が期待できる。</p>

令和 3 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

令和 4 年 3 月 28 日

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	工藤 宏一	全・定・通	困・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	生徒の現状を把握した目標でその設定は適切である。 地域、保護者に支えられ、ともに歩む加計高校の目指すところをあらわしている。 計画についても具体的な着手、実行しやすいものである。 明確な達成感が得られる。 各テーマに適切に目標・指標・計画の設定がされている。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	それぞれの生徒の進捗度に合わせた指導が伺える。 評価結果から、9項目中7項目がAであり、残り2項目もBであり、評価も適正である。 とりわけ生徒の自主性、企画力の向上が適切に評価され、その結果が進路実現や地域への貢献に表れている。 コロナ過であっても手法を工夫し、計画に沿った進捗が評価されている。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	目標達成に向けた先生方の取組は評価できる。 生徒の企画力の向上、進路目標の実現の取組は適切で、効果的である。 国際交流は「おもてなし隊」の活躍、直接の招聘、オンライン等でコロナ禍でも成果を上げている。 授業づくり、指導力の向上については、授業参観学期1回を引き続き進めて欲しい。 家庭学習の定着は小・中学校も共通の課題であるが、中学校でも加計高校の取組を踏まえ、改善に生かしたい。 各テーマの目標達成に向けた具体的な取組がなされている。
評価結果の分析の適切さ	A	指導の結果が適切に分析評価されている。 評価結果の分析と生徒や学校の状況とよく合致しており、適切である。 マルシェ活動において、実施後の消費者の反応等から次の取組に向けた活動方針までが分析されていればさらに評価できる。
今後の改善方策の適切さ	A	今後に向けての改善方策等が、適切に把握されており期待が持てる。 志を高く持ちチャレンジする生徒を育成するオーダーメイドの進路指導は、地元の生徒にこそ求められているものである。個別面談、個別指導による家庭学習の定着引き続き取組をお願いしたい。 安芸太田の関係諸機関との連携態勢を強みとして、地域貢献活動のみならず県内外に向けての情報発信をお願いしたい。 改善方策が目標的な表現になっているので、その目標達成に向けて具体的な方策が表現できればさらに評価できる。
総合評価	A	コロナ過の中での指導は大変だと思いますが先生方が一体となって最高の成果が上がっていると思います。今後ともよろしく願います。 生徒一人一人の個性を生かした進路実現を引き続き伸ばして欲しい。 主体的な地域への貢献活動が、加計高校への信頼感を高めている。 中学生の目標となる加計高生の存在が、地元率を向上させている。 各目標及び評価指標の設定が適切であり、多くの項目において高いレベルで実現している。組織としての取組が効果を上げている。国公立大学合格はすばらしい成果である。 年間の具体的な取組内容とその評価がよく理解できる評価になっている。